わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター
ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

70

「人生会議」ACPとは ⑦

リビングウィル諏訪市版作成の試み

諏訪赤十字病院 副院長 久島（くしま） 英雄（ひでお）

人生の終末期には「70%の方が自分の意向を表明できなくなる」と言われています。アドバンス・ケア・プランニング（以下ACP）は、将来の意思決定能力の低下に備えて、自分の治療や療養についての意向を、患者・家族・医療者（または介護者）の間で話し合うプロセスです。では、具体的に「誰」と「どのような内容」の話し合いをすれば良いのでしょうか？

「誰」はあなたの考え方や価値観をよくわかってくれている方―あなたの意思を代弁してくれる方で「キーパーソン」と呼ばれることもあります。多くは身近なご家族が多いでしょうが、ご友人であってもかまいません。そして問題なのは話し合う「内容」だと思います。何を話し合えばいいか戸惑うことでしょう。

そこで、『ライフドアすわ』（＊）が中心となり、諏訪市人生会議（ACP）ワーキンググループを立ち上げ、話し合いのたたき台となる「諏訪市版リビングウィル」の作成を進めてきました。

リビングウィルは事前指示書とも訳され、ACPで話し合った内容を書面に残したものです。その書式や記載例は、非常にシンプルなものから、詳細な内容に及ぶものまで、さまざまな地域や団体で作成されています。当ワーキンググループでは、難しい表現を避け、できるだけシンプルで取り組みやすい内容に徹しました。作成に当たっては、先進的に取り組まれている松本市医師会作成の「わたしのリビングウィル（事前指示書）」を参考にさせていただきました。

最後まで自分らしく生きるための希望表明書

諏訪市版リビングウィルは、今年8月5日に行われた「ライフドアすわ 6周年開所記念講演会」で紹介させていただきました。今後は各医療機関や市役所、調剤薬局、ライフドアすわに置いていただき、皆様が手にしやすい環境を作っていきたいと考えています。

リビングウィルには、治療しても回復が見込めない状態になった時の「延命治療」についてお聞きする項目があります。「治療しても回復が見込めない状態」であるかどうかを一般の方が判断することは困難ですので、ご自宅で急に具合が悪くなった場合は、救急車を呼ぶことになると思います。その際に、たとえ「心肺蘇生を希望しない」ことを表明していても、救急隊には心肺蘇生を行う法的義務があるため、心肺蘇生を行いながら病院に搬送することになります。病院到着後は、リビングウィルにより患者様の意思が示されていれば、ご本人の意向に沿った終末期医療を提供することができます。そのためにも、作成されたリビングウィルをかかりつけ医や、当院の主治医にお示し下さい。

＊『ライフドアすわ』は諏訪市医師会と諏訪市社会福祉協議会と私たち諏訪赤十字病院との協力によって諏訪市の地域包括ケアシステムを支えています。

リビングウイル！判らない時には、是非、ライフドアすわの扉を叩いて下さい。

（毎月第2日曜日掲載）